



『世界旅行萬國名所圖繪』第四巻 86-87 頁より
 神奈川大学図書館所蔵

目次

- 図書館で一味違ったクリスマスを！
 …… 2 頁
- 2011 年の図書館をふりかえる
 …… 4 頁
- 【連載】図書館のススメ (その9)
 横浜の専門図書館③
 その他おススメの専門図書館
 …… 5 頁
- 【視聴覚資料室より】
 特集「子役スターが印象的な映画」
 …… 6 頁
- 図書館の所蔵資料紹介
 『世界旅行萬國名所圖繪』
 …… 7 頁
- 図書館からのお知らせ
 今号の表紙
 編集後記
 …… 8 頁

本の歴史を変えた人々①

ウィリアム・キャクストン
 (William Caxton, 1422?-1491)

イギリスで初めて活版印刷を行った出版業者。ロンドンやオランダで毛織物商人として輸出入に携わる一方、書物を受用者としてケルンで印刷術を学んだのち、キャクストン自らが翻訳し、英書印刷の発端と言われる英訳本『トロヤ史』を 1474 年に印刷した。

1476 年イギリス、ウエストミンスター寺院の救貧院内にイギリス最初の印刷所を設け、約十年間に『カンタベリ物語』など百種類もの書物を印刷した。これらは「キャクストン版」といわれ現代では非常に貴重な書物とされている。また、キャクストンが採用した英語文体や綴りは、近代英語の成立に寄与した。

図書館で一味違ったクリスマスを！

クリスマスはすっかり日本に定着し、今では宗教とは関係なく多くの人がこのお祭りを楽しんでいます。意外なことに初期キリスト教においては、クリスマスを祝う必要があると考えられてはいませんでした。しかしキリストの“誕生”の日について数々の議論を重ね、12月25日の祝祭を普遍的に定着させるために努力を続けた結果、現在のように世界中の人々がクリスマスを祝うようになったという経緯があるようです。今回は、クリスマスにまつわる話題をそれぞれ異なった視点から論じる資料をご紹介します。

■ 12月25日は本当にキリストの誕生日なのか・・・？

クリスマスの起源／O. クルマン著、土岐健治、湯川郁子訳 教文館 1996年
請求記号：B386-116（横浜 地下書庫） 386-2（平塚 第2閲覧A）

ローマ史のなかのクリスマス（異教世界とキリスト教1）／保坂高殿著 教文館 2005年
請求記号：B196-14（横浜 1F開架） 196.3-1（平塚 第2閲覧A）



▲ヤン・ファン・アイク《ゲントの祭壇画》の天使（部分）15世紀

3世紀頃まで、クリスマスを祝う習慣はありませんでした。キリストが生まれた日についても一切の記録は存在せず、聖書の記述からは春から秋の間に生まれたと推測できるそうです。また、かつては12月25日ではなく1月6日に降誕祭を祝う習慣もありました。ではなぜ現在12月25日をキリストの降誕日としてお祝いするのでしょうか？（厳密にはこの日を降誕祭としていない地域もある。）これらの二冊は、中世以前における異教とキリスト教の関係や、当時の民衆の祭りとクリスマスの始まりとの関連など、クリスマス成立の背景、過程を歴史的、神学的視点から解説しています。

■ 日本人はいつからクリスマスをお祝いするようになったのか？

クリスマス：どうやって日本に定着したか／クラウス・クラハト、克美・タテノクラハト著
角川書店 1999年
請求記号：B386-148（横浜 1F開架） 386.1-14（平塚 第1閲覧図書）

日本で行われた最古のクリスマスは、1552年、現在の山口県で当時布教に訪れていたイエズス会の司祭と日本人キリシタンによって祝われた記録があるそうです。日本人は、お正月になれば神社にお参りをし、時に仏壇に手を合わせ、クリスマスになるとお祝いをしますが、これについては著名な民族学者が、日本人の無宗教的なふるまいを問題とするよりは、外来の風習の土着化という面から考察すべきであると語っています。この本では、エリート層から一般大衆まで幅広い層の文化を通して見た日本のクリスマスの歴史が解説されています。



▲《最後の審判》の天使（フレスコ画部分）11世紀

新聞記事で読める明治のクリスマス／新聞記事データベース

図書館のHPからアクセスできるデータベース「聞蔵Ⅱ」で“クリスマス”とキーワードを入れ検索してみると、クリスマスに関連した当時の新聞の紙面を見ることができます。

1880年代には「居留地の外国人のお祭り」として記事にされていますが、1892年（明治25年）には日本人向けに「クリスマス御菓子」の広告が掲載され、1900年（明治33年）には銀座明治屋でクリスマスの飾りつけが始まったという記事が載るようになります。当時の紙面を見ることで、その時代のクリスマスの雰囲気や日本にクリスマスが定着していく様子がわかります。

■ サンタクロースが火あぶりに？

サンタクロースの秘密／クロード・レヴィ＝ストロース、中沢新一著 せりか書房 1995年
請求記号：B386-101（横浜 地下書庫） 386-1（平塚 第2閲覧A）

構造主義を代表する思想家であり、文化人類学者として著名なレヴィ＝ストロースが1951年にフランス、ディジョンで起こったサンタクロースの火刑を題材に書いた論文「火あぶりにされたサンタクロース」を収録。中沢新一の「幸福の贈与」が解説論文として収録されています。子供達にプレゼントを配ってくれる優しいサンタさんがなぜ"異端"とされ、大聖堂前の広場で火あぶりにされたのか！？（念のためですが、火あぶりにされたのはサンタクロースの"人形"です。）



▲シモーネ・マルティニーニ
《受胎告知》14世紀

■ 基本的なことが知りたい！

書物としての新約聖書／田川 建三著 勁草書房 1997年
請求記号：B193-184（横浜 地下書庫）

そもそもキリスト教に関する基本的な知識が無い、という場合は図書館に来ていただければいくらかでも調べることはできますが、中でもキリストの生涯が書かれている『新約聖書』について知りたいという方には本書がおすすめです。旧約と新約の違い、正典(カノン)とは何か、また聖書をめぐる言語の問題など、様々な疑問がわかりやすく解説されています。

■ クリスマス文学の王道はこの作品

“CHRISTMAS BOOKS” Charles Dickens, Chapman and Hall, 18--?
請求記号：A933-C.2-949（横浜 地下書庫）

クリスマス为主题にした文学作品といえば、チャールズ・ディケンズの『クリスマス・キャロル』でしょう。強欲な老人スクルージがクリスマス・イヴに見る自分の人生の過去、現在、未来。少年時代の楽しかった思い出や悲しかった出来事、次第に優しさを失っていく自分。雇い人ボブの子供による愛情、そして恐ろしい末路。

これはクリスマスが一人の人間にもたらした奇跡の物語です。1843年の発表以来読み続けられ、何度も映画化されたこの物語は、これからも世界中の人々に愛され続けることでしょう。神奈川大学図書館には19世紀にロンドンで出版された“CHRISTMAS BOOKS”（第一話にクリスマス・キャロルを収録）を所蔵しています。この名作を英語で読んでみてはいかがでしょうか。



▲ジョン・リーチ『クリスマス・キャロル』
挿絵 19世紀

● 番外：クリスマスによく流れる曲はこれだ！

クリスマスになると必ず流れる曲があります。特にこの3曲については必ず耳にしていることでしょう。3曲ともにポップス界において多くの名曲が生まれた1980年代に発表されています。

Merry Christmas Mr.Lawrence / 坂本 龍一 1983年

"坂本龍一映画音楽選曲集：Ultimate Films"収録（横浜 視聴覚資料室 請求記号：R9D-028）

1982年公開、大島渚監督の映画『戦場のメリークリスマス』のテーマ曲。劇中で坂本龍一は俘虜収容所長ヨノイを演じました。

ラスト・クリスマス / ワム！ 1985年

"The Final" 収録（横浜 視聴覚資料室 請求記号：R6B-152）

80年代に次々とヒットを飛ばし世界的成功を収めたワム！ この曲は1985年に発表され今やすっかり定番となっています。

クリスマス・イヴ / 山下 達郎 1983年

"MELODIES" 収録（横浜 視聴覚資料室 請求記号：R6E-235）

日本がバブル期だった頃のJ R東海のコマーシャルで使われ、クリスマス・ソングとして不動の地位を確立しました。

2011年の図書館をふりかえる

今年2011年は私達にとって忘れることのできない年になりました。3月11日に起こった東日本大震災はいたるところに大きな傷跡を残し、その後の被災地の復興も思うように進んでいない状況です。

この大災害は本学図書館にも少なからず影響を及ぼしました。夏季休業期間にはエネルギー不足によって開館時間を短縮し、館内の節電対策に追われました。また、近年の異常気象は図書館の資料にも大きな影響を与えています。

2011年の図書館をふりかえます。

■ 震 災 - 2011年3月11日

地震が起きた日は春休み中だったこともあり、図書館利用者は授業実施期間に比べて少なく怪我をした人がいなかったのは幸いでした。図書館内では耐震補強をしていたこともあり、棚から落下した資料はそれほど多くありませんでしたが、数箇所でも落下した資料が見られました。図書館員は余震が繰り返されるたびに閲覧室や書架を見回り、利用者の安全確認や棚から落下しかけている資料を元に戻すなど、気の休まらない日々が続きました。



▲3F廊下の書架



▲地下書庫 落下した資料



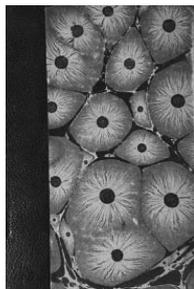
▲23号館 電動書架の破損

■ 節 電 - エネルギー問題に直面

夏季休業期間、横浜図書館は少しでも電力の消費を少なくするために開館を30分早め、17時閉館を実施しました。4月に開室したリフレッシュルームでは、新しく設置したデジタル・サイネージ（電子看板）の使用も中止しました。他にもエレベーター使用の制限など、利用者にはさまざまなご不便をかけたましたが、無事に夏を乗り切ることができました。

■ 燻 蒸 - 異常気象が資料に及ぼす影響

燻蒸という言葉はご存知でしょうか？クンジョウと読み、これは本などの資料を害虫やカビから守るために殺菌処理を行うことを指します。今年の9月27日から10月2日にかけて横浜図書館では3F閲覧室において燻蒸を行いました。資料を長期保存していくためには何年か一度には必要になる処理ですが、今回の燻蒸の直接の原因には昨年から今年にかけての異常気象が深く関係しています。これまでほとんど発生したことがないカビが、猛暑によって資料に発生したことがその理由です。燻蒸処理した資料や作業の行われた場所などは利用者の健康には影響がありませんので、安心して利用してください。



■ 展 示 - 美しいマーブル模様

色々と苦勞の多い2011年でしたが、今年も図書館の展示ホールでは利用者の皆さんに美しい資料を紹介することができました。特に7月から9月にかけて行った展示「マーブル紙に見る書籍の美」では、図書館の所蔵する19世紀の洋書を中心に、本というモノの美しさを紹介することができたのではないかと思います。将来電子書籍が主流になり、そのうち本というモノはなくなってしまうのではないかとされている現在、実際にはどうなるかわかりませんが、少なくとも書籍を愛し、その美を目にすることを至上の喜びとする人達はいつの時代も存在するのではないのでしょうか。

▲虎目模様のマーブル紙で装丁された19世紀の書籍の表紙

「放送ライブラリー」「新聞ライブラリー」と紹介してきましたが、今号では横浜にある他の専門図書館をまとめてご紹介します。

1. 横浜美術館 美術情報センター

横浜美術館に併設されている美術に特化した専門図書室です。図書のほかに映像資料も所蔵しています。天井の高い、モノトーンの落ち着いた閲覧席で高価な美術書を広げると、なんとも贅沢な気分になれます。横浜美術館で行われている企画展示に関連した資料を集めたコーナーもあります。展覧会図録とともに全国で開催されている展覧会情報（チラシ・パンフレット）も充実しており、見るだけで楽しめます。なお、美術関連資料を探す際には東京都現代美術館・東京国立現代美術館・横浜美術館等9つの美術図書館の所蔵資料を横断検索できるサイト（<http://alc.opac.jp/>）があり、便利です。

場所：横浜美術館併設（みなとみらい線みなとみらい駅徒歩5分）

利用時間：10：00～17：00（入室16：30）※節電のため時間変更

休室日：木曜（祝日の場合はその翌日）・年末年始・特別整理期間



▲横浜美術センター

2. 県政情報センター

神奈川県および県内市町村の行政資料を収集するには、県政情報センターがおススメです。ここは日本大通り近くにある県庁第二分庁舎の1・2階にあり、2階が行政資料コーナーです。県予算などの各行政分野の資料、議会関係資料、統計資料約5万点を所蔵しています。県内在住・在勤・在学であれば、資料の貸出も行っています（3冊・1週間）。このような情報センターは、横浜のほかに県内8箇所にあります。また、有償になりますが、神奈川県全域航空写真もこちらで入手することができます。

場所：神奈川県庁第二分庁舎1・2階（みなとみらい線日本大通り駅すぐ）

利用時間：8：30～17：15

休室日：土・日・休日・年末年始・資料総点検期間中

3. 横浜開港資料館内閲覧室

横浜開港資料館は、日本大通りの大さん橋埠頭の近くにある、横浜の歴史に関する資料を収集・保存し、一般に公開している資料館です。建物は旧英国領事館のものを利用してあります。地下にある閲覧室では、古文書等を直に見ることができます。日本で最初に発行された新聞『The Japan Herald』や、これに影響を受けた日本人が初めて発行した『横浜毎日新聞』なども所蔵しています。

場所：横浜開港資料館併設（みなとみらい線日本大通り駅徒歩2分）

利用時間：9：30～17：00（入室は16：30まで）

休室日：月曜・年末年始・資料整理日

利用料：100円（資料館の入館料は200円。この場合は閲覧室利用込）

4. 神奈川近代文学館内閲覧室

港の見える丘公園内にある神奈川近代文学館併設の図書室です。館名のとおり、日本の近代文学に関する資料を収集保存しています。ホームページより資料の検索も可能です。近代文学館では、神奈川ゆかりの作家や作品の資料を収集し特別展示および常設展示を行っています。

場所：神奈川近代文学館併設（みなとみらい線元町・中華街駅徒歩8分）

利用時間：9：30～18：30（土日祝日は17：00まで）

休館日：月曜

5. ハウスクエア横浜ライブラリー

住宅展示場「ハウスクエア横浜」の「住まいの情報館」3階にある、住宅・インテリアに関する専門図書館で、デザインや建築のプロの情報源として活用されています。図書館内のインテリアも厳選されていて見ものです。貸出はできませんが、建築学科の学生、住宅・インテリアに興味のある方は、モデルハウスを見つづ足を運んでみてください。

場所：横浜市都筑区中川 ハウスクエア横浜内（市営地下鉄中川駅徒歩2分）

利用時間：10：00～18：00

休館日：水曜（祝日を除く）

特集：子役スターが印象的な映画

今年2011年は、子役が活躍するドラマが大きな反響を呼んだ年でした。子役スターの歴史は古く、映画の都ハリウッドでは1921年に7歳のジャッキー・ターガン（1914-1984）がチャーリー・チャップリンの映画『キッド』に出演し、一躍スターになりました。1930年代に活躍した子役スターには笑顔と金髪の巻き毛が愛らしく“アメリカの象徴”と言われたシャーリー・テンプル（1928-）がいます。

日本では1949年に4歳で芸能界にデビューした松島トモ子、1970年代のNHK朝の連続小説で一躍人気者になった斎藤こず恵、1960年代から70年代にかけて人気のあったドラマ「ケンちゃんシリーズ」の宮脇健などの子役スターが活躍しました。

子役スターの中には成長するにつれ子役時代の人気を保てなくなり、芸能界から消えていく者もありますが、幼いころから美貌の持ち主で、成人してからも美人女優として活躍した子役出身のスター、エリザベス・テイラー（1932-2011）や、ジョディー・フォスター、ナタリー・ポートマンのように成長してからも第一線の俳優として活躍しているスターも多くいます。日本で現在も活躍する子役出身のスターには、子役時代とは異なるキャラクターで売り出した杉田かおる、ドラマ「北の国から」で純を演じた吉岡秀隆、ミュージカルで活躍する鳥田歌穂などがいます。

視聴覚資料室の所蔵資料から、子役スターの活躍が印象的な映画を紹介します。

クレイマー、クレイマー 1979年

ダスティン・ホフマンとメリル・ストリープ夫婦の子供を演じるのが当時8歳のジャスティン・ヘンリー。子役ながらこの映画でアカデミー助演男優賞にノミネートされている。

横浜 視聴覚資料室 請求記号：F778-246

ベイ・フォワード：可能の王国 2000年

11歳で出演した映画『シックス・センス』（1999年）で天才子役の評価を決定付けたハーレイ・ジョエル・オスメント（1988年生）。人に受けた思いやりや親切をほかの人へ返す（ベイ・フォワード）という方法で世界を変えることを思いつく主人公トレヴァーを演じる。

横浜 視聴覚資料室 請求記号：F2019



小さな恋のメロディ 1971年

ダニエル（マーク・レスター、1958年生）とメロディ（トレイシー・ハイド、1959年生）の小学生カップルの恋の物語。全編にビージーズの曲が流れ、サウンドトラック盤も日本で大ヒットした。日本語吹き替え盤では杉田かおるがメロディの声を担当した。

横浜 視聴覚資料室 請求記号：F2863

グーニーズ 1985年

後に『ロード・オブ・ザ・リング』で主人公フロドの従者サム役を演じるショーン・アスティン（1971年生）、『スタンド・バイ・ミー』（1986年）に出演したコリー・フェルドマン（1971年生）などが出演する冒険映画。製作総指揮スティーブン・スピルバーグ、監督リチャード・ドナー。

横浜 視聴覚資料室 請求記号：F2073



チャーリーとチョコレート工場 2005年

主人公チャーリーを演じるのはフレディ・ハイモア（1992年生）。2004年に公開された映画『ネヴァー・ランド』でピーターバンのモデルになった男の子を演じて注目され、ジョニー・デップの推薦を受けてこの作品にも出演した。

横浜 視聴覚資料室 請求記号：F2876

平塚 視聴覚資料室 請求記号：778-406

菊次郎の夏 1999年

ビートたけし演じる菊次郎と旅に出る小学生正男を演じるのは、関口雄介（1989年生）。あまり感情を表に出さないボーッとしたかわいらしさが印象的。

横浜 視聴覚資料室 請求記号：F1950

図書館の所蔵資料紹介

世界旅行萬國名所圖繪 卷1 - 卷7 / 青木恒三郎編輯；南枝醇閱

青木高山堂 1885-1886年

290.9という分類番号が示す資料のジャンルは紀行および案内記、漂流記である。図書館地下書庫、B290.9の書架にはたくさんの紀行書、旅行ガイドブックなどが並んでいる。それらの本に混ざって木製の小さな箱がある。その木箱には仕切り板が7枚入っていて、仕切りの上には一冊ずつ小さな本が収められている。取り出しにくいその小さな本を傷めないよう細心の注意をはらって取り出すと、驚くべき本が現われる。鮮やかなカラーイラストの表紙には“ILLUSTRATED GUIDE BOOK FOR TRAVELLERS ROUND THE WORLD”とあり、強烈な光線を発する太陽の上に“世界旅行”、日の丸とアメリカ国旗が刺さった地球に“萬國名所圖繪”の文字が浮かぶ。もう一冊取り出してみる。氷の大地を走るトナカイのそのの上につららで凍った本のタイトルが浮かぶ。そのつらら文字はホラー漫画の文字のようだ。アクが強いというか、くどいというか、悪趣味とも思えるイラスト。だがこの小さな本は圧倒的な存在感を発している。



『世界旅行萬國名所圖繪』は明治期の本である。出版元は明治から大正時代にかけて大阪で出版社を営んでいた青木高山堂。創立者の青木恒三郎(1863-1926)は、大阪の町医者上田文斎の三男として生まれ、青木家には養子に入り成人してから出版社を興した。青木高山堂は出版社、印刷所、小売書店を兼ね、本店を大阪心齋橋、東京支社を日本橋に構えていた。他の出版社の発行物も取り扱い、他社発行本の目録を作って直接読者に販売するという、現在の通信販売の元祖ともいえる商いをしていた。また当時広く読まれていた西洋の原書のほとんどを取り扱っていた。

明治期の日本は、現在のように誰でも気軽に海外旅行ができた時代ではない。この時代は欧米に渡ることを「洋行」といい、近代化の担い手となるエリート留学生

や一部の人間に限られた特権であった。だが、異国への旅は一般庶民にとっても憧れの的だった。明治三年から九年にかけて刊行された仮名垣魯文の『西洋道中膝栗毛』がベストセラーになっていることから、当時の人々の海外に対する関心の高さがうかがえる。この

ような時代に編者青木恒三郎は“読者が座ったままで世界を漫遊し、心の目、耳を楽しませることができるよう”と、この本を作ったのである。この『世界旅行萬國名所圖繪』には、ほぼ全ページにわたって各地の風景や名所、そこに暮らす人々を描いた銅板画が載り、各国の歴史や習慣などを詳しく説明している〈表紙写真〉。当時洋書を取り扱っていた高山堂では、海外から情報を集めることが可能であり、それが本書の膨大な情報源として生かされたのではないだろうか。銅板画は非常に緻密で詳しく描かれ、その美しい風景は読む人の想像力を刺激し、心の目を楽しませてくれる。

また、この本はその装丁においても読者を楽しませる美しい仕上げが施されている。本書は明治十年頃から二十年代前半に多く出回った「ボール表紙本」という洋装本である。ボール表紙本とは、ボール紙に色擦りの絵を貼り付けた表と裏の表紙をクロスの背表紙でつなぐという、簡易な製本技術によるものである。明治期の文学作品などには、鮮やかな色彩のボール表紙本がたくさん作られた。それまで日本で読まれていた和装本と全く異なる鮮やかな色で飾られた本は、多くの人々の目を楽しませたに違いない。廉価版というイメージのあるボール表紙本ではあるが、中には高級感のある仕上げが施されたものも作られた。本書もボール表紙本でありながら、見返しに光沢のあるマーブル紙が使われ、天地と小口にもマーブル模様は施されている。



今見ると奇妙な印象を受ける表紙の絵は、当時人々の未知の世界への興味をどれほどかきたてたことだろう。ページをめくると現れる異国の風景は、人々をどれだけ惹きつけたことだろう。

この本が持つ強烈な個性は、100年以上を経た今でも輝きを放っている。そしてこの本を手にとった時に感じた圧倒的な存在感には当時の人々の異国に対する興味と、ページの上の美しい風景への驚きが宿っているように思えるのである。

請求記号：B290.9-1~7-202 横浜地下上層

図書館からのお知らせ

横浜・平塚共通

- ◎冬季、春季長期貸出について
対象：学部生・科目等履修生
冬季長期貸出期間 2011年12月12日(月)～12月26日(月)
返却期限日 2012年1月13日(金)
春季長期貸出期間 2012年1月17日(火)～3月24日(土)
返却期限日 2012年4月9日(月)
※ただし、卒年次生は2012年3月24日(土)
- ◎年末年始の休館日について
期間：2011年12月27日(火)～2012年1月6日(金)
- ◎一般公開休止について
後期試験につき、下記期間一般公開を休止いたします。
期間：2012年1月7日(土)～2月1日(水)

横 浜

- ◎貸出ノートPCについて
12月上旬から無線LANによる学内ネットワークに接続が可能なノートPCの貸出を開始します。利用は図書館内のみに限定しています。館外への持ち出しは出来ません。授業の予習・復習や課題の作成などにご活用ください。
- ◎春季館内改修工事について
館内の一部改修工事を行います。
改修場所：エレベーター
日 程：2月中旬～3月下旬
- ◎燻蒸作業に伴う臨時休館について
1階開架閲覧室及び2階参考図書閲覧室で燻蒸作業を実施します。それに伴い臨時休館となります。詳しくは図書館ホームページならびに館内掲示でお知らせいたします。
日 程：2月上旬 予定

平 塚

- ◎休日開館の実施について
後期試験期間につき、休日開館を行います。
日 程：2012年1月8、9、15、22日の各日曜、祝日
開館時間：9:10～16:50
- ◎1月14日(土)の開館について
休講につき開館時間を短縮します。
開館時間：9:10～16:50

編集後記

神奈川県立図書館には、開国期の日本に関する資料のコレクションがある。これらは「海外から見た日本」という視点で記録された明治期の資料の集成で現在550点程集められている。このコレクションにジョン・レディ・ブラックというイギリス人ジャーナリストの著書がある。1861年、当初観光のつもりで立ち寄った日本に十年以上も滞在したブラックは、開国期の日本をまだ成年に達していない若い国、という意味を込めて“ヤング・ジャパン”と呼んだ。

“ヤング・ジャパン”には海外から様々な知識、技術、文化がもたらされた。1859年来日したJ.C.ヘボン、和英辞書を作り、ヘボン式ローマ字を広め、眼病に悩む日本人に目薬を伝えた。イギリス公使オールコック達が持ち込んだ西洋野菜はやがて日本の農家でも栽培されるようになった。近代的な都市計画や上下水道整備の技術も、外国人居留地を通して日本へもたらされた。

一方、外国人ジャーナリストや観光客は初めて見る日本と日本人を新鮮な眼差しでとらえ、その記録を新聞記事や旅行記として世界に発信した。日本は海外から多くを学び、世界からその存在を認められるようになる。1879年、再び日本を訪れたブラックはその著書で「今では日本は成年に達している！」と書く。

“ヤング・ジャパン”は開国から二十年を経て成年に達した。ブラックがこの国の発展を一人の人間の成長に例えたように、その後日本は、若気の至りのような失敗を重ねながらも元氣一杯、働き盛りの年代へと突入する。そして何とかやっていけると思っていたら、知らぬ間に体のあちこちにガタが来ていた。今年は大きな試練にも見舞われた。多分、もう若返ることはできないと思っている。だが、試練を乗り越え、その知恵と経験によって周囲に最良の選択を示す賢人のような年長者になれる可能性もある。

今の日本、ブラックなら何と呼ぶだろうか。

(N.E.)

今号の表紙

世界旅行萬國名所圖繪 卷1 - 卷7. / 青木恒三郎編輯；南枝醇園 -- 青木嵩山堂, 1885-1886.

挿絵と文章のページは第四巻の「欧羅巴州の下巻」に収録されている。この名所図繪は世界中の国と地域を七冊に分けて収録し、全七巻の最後では日本が紹介されている。

(詳しくは7p「図書館の所蔵資料紹介」に掲載)